



平成17年1月号 No.465

広報かなぎ

市町村合併元年

～新生五所川原市の五穀豊穡を願う～



金木さなぶり荒馬

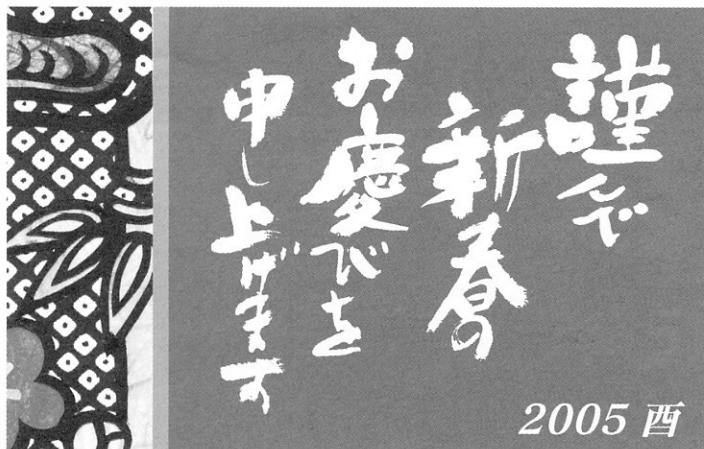
1月1日、金木八幡宮で奉納する
金木さなぶり荒馬保存会。



年頭のごあいさつ

金木町長

鳴海 義男



新年あけましておめでとうござ
います。

明るい希望に満ちた平成十七年
の新春をお健やかに迎えられるま
した皆様の御健勝と御発展を心から
お喜び申し上げます。

町民の皆様には、平素何かと町
行政につきまして深い御理解と御
協力を賜り厚くお礼申し上げます。
顧みますと、昨年は津軽北部四
町村の法定合併協議会の解散、そ
して、新たに五所川原市及び市浦

村との三市町村による五所川原地
域合併協議会の立ち上げに始まり、
合併協定書調印、県議会における
合併議案の可決など、主に町を取
り巻く市町村合併にかかわる事務
が膨大な量を抱え、多難かつ多忙
な一年でありましたが、おかげを
もちまして職員の奮励努力に支え
られ、雑多にわたる事務事業をさ
まざまな手法によりほぼ全てが解
決し、波風なく平穩に推移して、
新しい年を迎えられましたことは、
私どもの大きな喜びとするところ
であります。

私たちのこの金木町は昭和の大

合併以来この三月一日で五十年、
幾多の混乱と激動を乗り越えて、
今日の繁栄をもたらしたのは、町
民の英知と努力によるものでした。
私たちはその繁栄をもたらした先
人の子どもなのです。

いま年頭に当たり、このような
情勢のもとで、私どもは、これか
ら三月二十八日の新市誕生へ向け、
ひたすら住民の生活の安全と平穩
を願って、先人の足跡に学びつつ、
思いを将来にはせ、全職員一丸と
なって、町民優先の行政を推進す
る決意を新たに、専心努力を傾け
てまいる所存です。今後も皆様の
御指導御協力を切に願います次
第です。

そして今度の合併により、「か
なぎまち」が「かなぎちょう」と
呼び名が変わろうとも、私たちは、
太宰治の言う「津軽のほぼ中央で、
どこやら都会風にちよつと気取つ
た町」の住人であることには、変
わりません。誇っていいのです。
新しい五所川原市においてもこの
ようにいつまでもしゃれた気性に
富んだ金木町民でいようではありませんか。

終わりに、町民の皆様方の御健勝、
御多幸を心からお祈り申し上げます。
して、年頭のごあいさつといたし
ます。

金木町ふるさと眺望点

年頭の辞

町議会議員

中谷秀八



副議長	田中賢一
議員	外崎茂
議員	伊藤永慈
議員	田中昇
議員	古川幸治
議員	秋元洋子
議員	高杉利彦
議員	川口隆
議員	原田寛
議員	加藤磐
議員	桑田茂
議員	三浦春樹
議員	伊丸勇



明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え町民の皆様方に町議会を代表して心よりお慶びを申し上げます。

皆様方には、常日頃より町政運営につきまして格別なご理解とご協力を賜わりまして心から感謝と御礼を申し上げます。

ご承知のように昨年は、新潟県中越地震や相次いで列島に上陸した台風、そして夏の猛暑、十数万の尊い生命を奪ったスマトラ沖地震など記録的天災や幼児虐待、子供の殺人事件など人災が多発した一年でありました。とくに、天災

には人間がいかに無力かを痛感しているところであります。

さて、近年、少子高齢社会の進展等に伴い、国、地方を通じて厳しい財政状況にあることから、国の「構造改革」の重要な柱である「国と地方のありかたの改革」三位一体改革が推進されているところであり、これを受けて金木町は、行政と議会の効率化、簡素化を図るため、昨年十月十九日に、五所川原市、金木町、市浦村の三市町村で合併協定書に調印し、同日、三市町村の臨時議会で合併が議決されました、今年三月二十八日に

新市「五所川原市」誕生が決定されました。三市町村が合併し、一つの自治体になることは、共通の課題を克服し、行財政基盤を強化するための手段として極めて意義深い事であると考えております。

合併は、時代の変革ともいわれ半世紀に一度のペースで行なわれ明治二十二年、明治の大合併と昭和三十年の昭和の大合併そして今回の平成の大合併と三度目であります。

この三月二十八日は、ゴールではなく新しいまちづくりのスタートになります。新市誕生を目指して、これからもそれぞれの地域を理解し、認め合い、そして先人達が築いてくれました歴史と文化を大切にしながら地域発展のために素晴らしき地域を創ること、これが一番の使命だと思っております。

本年も、内外の経済、社会情勢の厳しい中ではありますが町議会の果たすべき役割と責任を自覚し、町民の皆様のご期待に添うべく懸命な努力をいたして参ります。

どうか、町民の皆様方の温かいご支援、ご鞭撻を心からお願ひ申し上げます、併せて、皆様方の益々のご健勝、ご多幸をお祈りいたしまして新春のご挨拶いたします。

かよなら!! サンタフェスティバル

地域住民が楽しめて、夢の語れる町づくりを目的に開催する『第十七回かなぎサンタフェスティバル』が十二月十一日、五百名余りの親子連れが中央公民館に集まり、クリスマスを楽しみました。

子どもたちは、受付で『サンタくじ』の引換券を受け取り、お菓子やぬいぐるみ、オモチャ等が当たるくじで楽しみ、大きなクリスマスツリーが飾られた大ホールで『サンタへ

のお願いカード』を書いて、いよいよステージオープン! 着ぐるみ人形劇『三匹の子ぶた』や生バンドによるクリスマスソング

メド



レーで会場の子どもたちは、サンタさんの登場を待ち焦がれていました。あわてんぼうのサンタクロースの音楽が流れると会場の後から『赤いハンチヤを着たサンタクロース』の登場です。サンタさんは、会場中央通路を通って、ステージへ上がり、いよいよ『お菓子のプレゼント』です。

子どもたちは、順番を守りながらステージへ上がり、サンタアーチをくぐり、



サンタさんから袋いっぱいのお菓子をいただき大喜び。サンタさんと握手。そして「ありがとう」と「バイバイ」。

『第一回目が昭和六十三年に芦野公園で開催され、長い間、地域の人たちに親しまれたこのイベントも、市町村合併により、今回でさようならです。』実行委員会の皆さん、お疲れさまでした。

第一保育所



第二保育所



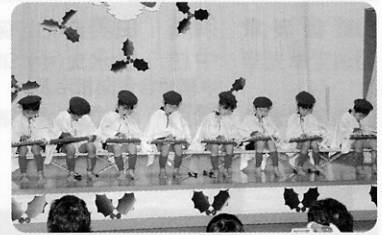
とても



《保育所》

おゆうぎ会

かわいい



第三保育所



第三保育所



X'mas コンサート 心癒され 健康に!!

十二月二十一日、公立金木病院（院長 杉山讓）の待合ロビーで、素晴らしい歌声や吹奏楽演奏などによるクリスマスコンサートが行われました。

披露してくれた童謡を歌う会や金木小吹奏楽部の皆さんは、キレイなハーモニードである町の町、軽快なリズムで奏でるマツケンサンバなどを披露し、サンタ帽子をかぶった入院患者さんや病院職員から盛んに拍手が送られています。

また、患者さんに励ましと感動を与え、楽しいひとときを過ごすことができたことに対して、病院長から感謝状が送られました。

吹奏楽部員の小林貴紀くんは「楽しい演奏にしよう」と頑張りました。早く元気になってほしい」と演奏への思いを話してくれました。



金木小吹奏楽部



歌と演奏に聞き入る皆さん



童話を歌う会